

東濃圏域 各医療機関の2026年度末に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1		タジミ第一病院	多治見市	【現状、特徴】 地域包括ケア病棟と療養病棟にて急性期病院より在宅へ復帰する患者を亜急性期として受け入れ、リハビリ実施後、在宅へ。退院後も往診、訪問看護など在宅でのケアにも対応。 【課題】 地域包括ケア病棟に求められる救急医療の提供体制の構築	急性期病院での入院期間が経過した患者の在宅復帰までの繋ぐ医療機関であること。						○	患者の状態により、一般病棟（地域包括ケア病棟）と療養病棟、双方が必要な現状を踏まえ、三次救急病院からの受け入れ先として必要と考えるため。
2		社会医療法人 厚生会 多治見市民病院	多治見市	【現状、特徴】 多治見市には、二次医療機関としての多治見市民病院と三次・高度医療機関である県立多治見病院があり、双方の役割を有機的に運用するための連携に努めている。また、専門医療に関しては、両病院の特色を出して補完しあうよう工夫し、医療機能分化を明確にしている。令和3年度は多治見市の救急搬送全体の36%、2,073件の救急搬送患者を受け入れた。 令和2年6月から回復期リハビリテーション病床を40床から50床とし、現在248床で運営している。 平成30年度から認定された臨床研修病院基幹型では、令和3年度3名、令和4年度3名の研修医を採用し計画通りとなっている。 令和2年4月から新型コロナ患者用に24病床を開放しているが、一般病床の令和3年度の平均在院日数は14日、病床利用率は全体で73.9%となり、東濃医療圏平均68.8%を5.1%上回っている。（東濃医療圏3市の病床利用率は30%～50%代の病床利用率である。） 在宅医療の充実に関して、特定行為看護師による周辺高齢者施設4施設に定期的に巡回を行い、重症化する前の患者受け入れを進めている。 【課題】 1)医師の確保 現在常勤医師40名であるが、5事業の更なる充実を図るため救急医、麻酔科医の確保 2)血液透析室の充実 患者数の増加による増床 3)午後の専門外来の充実 4)外来患者数増加に伴う検査室の拡充と駐車場整備 5)休棟病床再開に向けた検討 （コロナ渦で人員の確保が困難なため休棟中）	三次医療を主体としている県立多治見病院では、比較的中年者を対象としている。当院は高齢者の肺炎・感染症に対応する必要があり、今後さらに必要度が高くなることが予想される。医療提供の量としては、回復期リハビリテーションと同様に、急性期医療が必要で、他施設との医療連携を充実させ地域完結型医療を担う。						○	休棟病床については、新型コロナウイルス感染症が収束し、人員の目的が立ち次第運用を再開予定。ただし、病床区分としては高度急性期ではなく、回復期（地域包括ケア病棟）を積極的に検討する。
3		岐阜県立多治見病院	多治見市	【現状、特徴】 ●高度急性期及び急性期の患者を受け入れ、医療の提供体制を整えている。 ●高度急性期・急性期医療及び政策医療などに積極的に取り組んでいるほか、造血幹細胞移植、TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）の導入など先進医療にも力を入れている。 ●地域医療支援病院として、多治見シャトルの運営など、近隣医療機関との連携を高め、医療連携を進めている。	●高度急性期及び急性期患者の受け入れを継続する。 ●高精度・先進医療、急性期医療及び政策医療など他の医療機関では実施が困難で、地域に不足している医療に積極的に取り組む。 ●近隣医療機関との連携を高め、協力体制の充実により、更なる紹介・逆紹介の促進を図る。		実施 済み				○	東濃圏域の中核病院として中心的役割を担うため、体制を維持する必要がある。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
4		サニーサイドホスピタル	多治見市	【現状、特徴】 回復期リハビリテーション専門病院として急性期病院とシームレスな医療連携を重視している。 【課題】 以前は、地域完結型の医療構想が推進されていたが、最近はこの構想がしりすぼみになっている気がする。当院は地域完結型を目指しているので困っている。	超急性期、急性期、回復期という分類の中で、回復期病院としての役割を担っていけるよう努力したい。						○	当院は、地域医療構想の中で、常に複数の医療機関による連携を重視し、地域完結型の医療を目指してきた。厚生労働省も以前は、地域内での病院の機能分化を目指してきたと思われるが、最近は病院完結型の医療も認める施策が増えているように思われる。一つの病院の中に、急性期、回復期、慢性期の機能をもつような場合、今回のコロナ過のようなことが起きると、臨機応変に貴重なベットを利用することが難しくなると思われる。急性期、回復期、慢性期のどこに照準をあわせるかが難しいからである。私は、各病院の機能はできるだけ簡素化し、病院完結型でなく、地域完結型で各医療機関が連携した方が、効率的で、災害対応等にも臨機応変に対応できるのでないかと思料している。
5		総合病院 中津川市民病院	中津川市	【現状、特徴】 ・東濃東部及び木曽南部地域の中核病院として急性期、回復期の機能を担っている。 ・この広い医療圏内において、救急・小児・周産期などの不採算部門の医療に取り組んでいる。感染症対策においては、他の医療機関との連携体制を構築し、重点的な医療機関としての役割を果たしている。 【課題】 ・令和4年度から脳神経内科の常勤医師が不在となり、年々、医師確保の状況は厳しくなっているため、医師確保が一番の課題である。また、看護師等も不足している状況であるため、確保対策が必要である。 ・コロナ以降の令和5年度から赤字となっており、経営の強化及び財源確保が必要である。	・広い医療圏内の医療機関の役割分担を明確にし、東濃東部及び木曽南部地域の中核病院として、急性期医療を中心とした医療提供体制を担っていく。 ・今後も救急・小児・周産期などの不採算部門の医療に取り組んでいく。		実施 済み	○	○			②休床していた44床を削減した。 ③新興感染症対策事業の体制確保。 ④東濃東部及び木曽南部の広い医療圏内の医療機関の役割分担を明確にし、効率的で持続可能な経営を目指していく。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
6		城山病院	中津川市	【現状、特徴】 40床の回復期リハでは、地域連携パスのもとに中津川市民病院を主に受け入れています。 療養病床では看取りも行っています。 【課題】 療養病棟での看取りには体制強化が必要で、人件費が高騰しています。看取りが増加している背景は、終末期を抹消点滴で迎える紹介患者が増えたためと考えます。高齢独居、在宅困難者も増加しているため回復期・慢性期とも症状が改善しても一定数は退院困難。	坂下病院の病床減少により療養環境・看取りの役割はさらに重要と考えます。 したがって、慢性期病床を医療度の低い介護医療院への転換は難しいと考えています。						○	40床の回復期リハでは、地域連携パスのもとに中津川市民病院を主に受け入れています。 療養病床では看取りも行っています。 療養病棟での看取りには体制強化が必要で、人件費が高騰しています。看取りが増加している背景は、終末期を抹消点滴で迎える紹介患者が増えたためと考えます。高齢独居、在宅困難者も増加しているため回復期・慢性期とも症状が改善しても一定数は退院困難。 坂下病院の病床減少により療養環境・看取りの役割はさらに重要と考えます。 したがって、慢性期病床を医療度の低い介護医療院への転換は難しいと考えています。
7		医療法人社団仁愛会瑞浪病院	瑞浪市	【現状、特徴】 急性期病院での対応は終了したものの、施設での対応が困難な患者さんの受け入れ等。 【課題】 介護力不足等によるADL、QOLの維持・改善が困難な状況等。	地域の需要と当院の供給力を見ながら、適宜対応予定です。						○	感染症対策継続中であり、ややイレギュラーな状況にて、見直しの想定が困難であることより現状維持の回答とさせていただきます。
8	統合	岐阜県厚生農業協同組合連合会東濃中部医療センター 東濃厚生病院	瑞浪市	統合により廃止								
9		市立恵那病院	恵那市	【現状、特徴】 地域住民を対象とした一般急性期医療、救急医療、回復期リハビリに加え、周産期・小児入院医療・人工透析等他の医療機関で代替の利かない医療を担う。介護施設と連携し在宅医療も行う。 【課題】 医師の確保が困難。一部診療科で緊急手術症例の受入ができていない。	・地域の一般急性期医療・救急医療 ・回復期リハビリ医療 ・周産期・小児科医療 ・人工透析・がん化学療法 ・在宅医療 ・新興感染症への対応						○	新興感染症等への対応を考えると病棟数の削減は現実的ではない。 病床数削減はあり得るが現状議論されていない。 同一自治体に別の公立病院が存在するが、現状で整理統合は計画されていない。将来的には持続可能な地域医療を提供するために検討が必要。
10	統合	岐阜県厚生農業協同組合連合会東濃中部医療センター 土岐市立総合病院	土岐市	統合により廃止								

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
11		医療法人敬生会 高井病院	土岐市	【現状、特徴】 外来機能では、地域のかかりつけ病院として利用してもらえる様に一般外来・透析治療・訪問診療に注力しており、入院施設では療養病棟を地域の後方支援病院として位置付けている。 【課題】 世界的・全国的に感染症が蔓延した場合、後方支援病院として療養病床のみの施設でどこまで対応ができるのか。院内で機能分化を持つことができないか。	”かかりつけ機能”や”後方支援病院”としての役割を維持し続けたい。また、地域での高齢化が進中で在宅診療の機能を充実させていきたい。	○	○					①、② 可能であれば増床を考えたい。2病棟体制をとれるようにしたい。 上記が不可の場合は⑥現状維持 感染症の流行がおきた場合に1病棟ではコントロールは厳しく、急性期から後方支援病院としての期待に応えられない場合もありえる。
12		国民健康保険上 矢作病院	恵那市	【現状、特徴】 56床中、37床を地域包括ケア病床で運用している。急性期医療機関等から在宅復帰に向けて等回復期の患者の受け入れ中心に行っている。 【課題】 ・医師、看護師等医療スタッフの不足が続いている。今後の定年退職等もあり、スタッフ確保が喫緊の課題である。 ・救急医療体制の確保(スタッフ不足による)	・回復期病院で運営 地域では高齢化が進み、人口減少している。患者数も減少しており経営的には厳しい状況であるが、山間へき地にあるため、地域には欠かせない医療機関である。	実施 済み	○			○		①急性期から回復期へ見直し 平成28年11月に療養病床22床を廃止。56床をすべて一般病床とし、急性期19床(休床4床)地域包括ケア病床37床とした。回復期の増床または転換を検討中。(目標は2025年度だが時期は未定) ②病床数の削減検討(時期未定) ⑤現状を踏まえ、恵那市で医療のあり方検討をはじめたところである。
13	新規 策定	公立東濃中部医 療センター	土岐市	【現状、特徴】 令和8年2月に開院し、新たに高度医療機器等を導入したことにより、専門性の高い医療の提供が可能となっている。 また、救急受入体制の強化・整備を図った結果、統合前と比較して救急搬送患者の応需率は大きく向上している。さらに、統合前は両病院を合わせても循環器内科の常勤医師が1名であり、カテーテル検査等の実施が困難であったが、新病院では常勤医師4名体制を確保したことで、カテーテルを用いた心臓の検査・治療が実施可能となり、その件数も増加傾向にある。 加えて、土岐市および瑞浪市から新病院における分娩体制の整備について強い要望を受け、常勤医師4名を確保し運用体制を整備した結果、4月に第1号の出生を迎え、7月までに10名の新生児が誕生している。 【課題】 現在、常勤医師は79名であるが、耳鼻咽喉科においては常勤医師が不在であり、また腎臓内科および泌尿器科においては常勤医師が各1名体制となっていることから、これら診療科における常勤医師の確保が課題となっている。	東濃中部地域の医療を担う中核病院として、救急医療、がん治療、へき地医療、災害医療、周産期医療等の提供に取り組むとともに、在宅復帰を見据えた回復期リハビリテーション機能のさらなる充実を図る。また、医療連携体制を強化し、地域完結型の医療提供体制を整備する。			○	実施 済み			当院は、統合により高度かつ多機能な医療提供体制を有する新病院として開院したところである。しかしながら、医療ニーズの多様化や医療の高度化・専門化が進展する中にあるのは、すべての機能を均等に担うのではなく、地域における役割を明確化し、効率的かつ持続可能な医療提供体制を構築することが求められている。 このため、救急医療をはじめとする急性期医療への対応を基盤としつつ、回復期機能の充実および在宅復帰支援の強化を図るとともに、周産期医療や小児医療については、地域の要望を踏まえた体制整備を進める。 また、がん、脳卒中、心血管疾患等の主要疾病については、急性期から回復期、在宅に至るまで切れ目のない医療を提供するため、関係医療機関との連携を一層強化し、地域完結型の医療提供体制の構築を推進する。
14		中西ウィメンズクリ ニック	多治見市	【現状、特徴】 生殖医療をはじめ、幅広い年齢層の患者様に寄り添った産婦人科医療を提供してます。 【課題】 特になし。	少子化問題に真摯に向き合い、分娩数の維持・増加に努める。						○	地域の産婦人科医療を維持・継続していく上で、現状の病床機能を維持することが重要であると考えます。
15		安藤クリニック	多治見市	【現状、特徴】 肛門外科を主体とした急性期有床診療所 【課題】 外科医1人で、手術と今後担うべき役割の両立は困難。	医師の確保次第だが、肛門外科を主体とした急性期医療(手術)に加え、地域の老人医療について、できる範囲で担っていきたい。						○	外科医1人で、手術と今後担うべき役割の両立は困難。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年度末に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
16		浜田・浅井医院	多治見市	【現状、特徴】 末期癌を中心とした在宅医療 【課題】 人員の確保	在宅医療の継続						○	人員不足により、今後の継続が危ぶまれる。 今後の継続は不透明である。
17		多治見クリニック	多治見市	【現状、特徴】 人工透析 【課題】 CKDに対する予防を進めたいが、準備が整っていない。	CKDに対する予防を実施し、少しでも透析導入を遅らす、無くす医療を実施していく。						○	人手不足により、より良い医療を提供していくことは望ましいが、まずは現状維持に努めることで足元を固める。
18	変更	幸クリニック	多治見市	【現状、特徴】 上記の有床診療所(入院維持透析を含めた19床)と一般外来診療、外来透析15床 【課題】 令和8年9月30日をもって廃院します。	左記の通り廃院のため、事業停止						○	
19		塚田レディースクリニック	瑞浪市	【現状、特徴】 昨年末(2021年末)に分娩の取り扱いを終了し、現在は、入院は行っておらず休棟中の状態であり、外来診療(産科・婦人科)のみ行っている状況である。 【課題】 現在休止中の病棟スペースをどのように活用していくか。	東濃地域において分娩取り扱い施設が減少していく中で、当院では妊産褥婦の分娩以外のサポート(保健指導・メンタル面でのサポート等)を休棟中のスペースを活用して行っていく必要があると考える。						○	現在休棟中であり、今後分娩の取り扱いを再開しての病床の再稼働は可能性として低い為現状維持とするが、今後、休棟中のスペースを妊産褥婦のサポートに活用していくことを検討中である。
20	変更	中部クリニック	恵那市	【現状、特徴】療養型医療施設 【課題】施設の老朽化、医療従事者の確保	療養型医療施設の現状維持	○	○					病床数削減(一般病床1床、療養病床4床を削減予定)も、14床の療養病床にて地域に必要なニーズに応えていきたい。
21	変更	中津川市国民健康保険坂下診療所	中津川市	【現状、特徴】 4月から伴所長が着任し、既存の内科に総合診療科の医師が所長の他に3名加わり、地域密着型の診療所として運営しています。 従来からある訪問診療や訪問介護を生かして地域包括ケアを推進しています。 【課題】 医療を安定的に提供するための看護師などの医療スタッフの確保が思うようにできない状況が続いています。	地域包括ケアを推進するため、訪問診療や訪問看護を継続し、総合診療を目指す研修医や診療看護師を目指す看護師の研修フィールドとなるよう受入体制を整え、医療スタッフの充実を図り、地域の安心と安全に貢献していきます。 また、病床を削減した4階スペースは高齢者福祉施設の誘致を進め、医療と介護の連携強化を図ります。		○					19床を廃止し、民間の高齢者福祉施設の誘致に努めます。
22		多治見スマートクリニック	多治見市	【現状、特徴】 変形性関節症に対する手術対応施設 【課題】 腰椎圧迫骨折の患者受入に対する病床不足	地域高齢化に伴い、腰椎圧迫骨折、変形性膝関節症に対する回復期施設とし役割を担うことが不可欠と考えている。		○					腰椎圧迫骨折受入のため増床を検討している